

「研究データエコシステム 東海コンソーシアム」 による課題解決(?)

青木 学聡
(名古屋大学 情報戦略室)

2024.10.8-9

研究データエコシステム構築事業シンポジウム2024

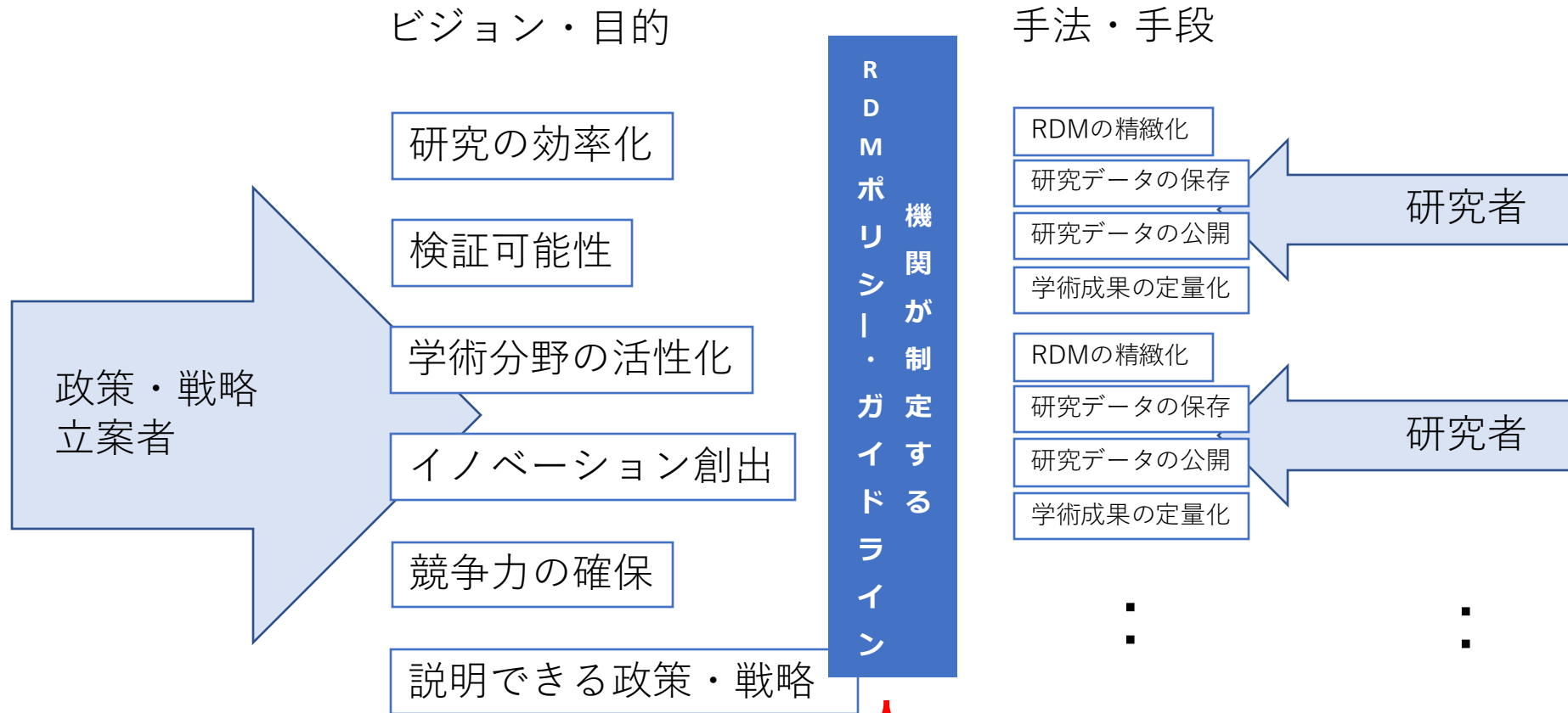
パネルディスカッション「研究データ管理をスタートするための最大の課題は？」

ルール・ガイドラインはなぜ必要?

データエコ事業に対する青木のポジション

- 「ルール・ガイドライン」は「複数人が協力して動くため」の必須要件
 - 研究者を「迷わせない」
 - 研究支援組織が「迷わない」
 - 異なる文化を調停する
- 2025年 (1年後)
「データポリシー策定率100%」になると、
「機関は何ができるようになるか?」

トップダウン、ボトムアップの狭間で 「多様性のある」「ギャップ」の調整が本質



大学は、「ビジョン・目的」と「(多様な)手法・手段」の調整の場
RDM環境整備を含む「学術支援」は重要なコアビジネス

2023年12月

「研究データエコシステム東海コンソーシアム」発足



<https://rdm.nagoya-u.ac.jp/group/consortium/>

- 「ルール・ガイドライン」チームでの実践結果を共有
- 2024年10月現在の加入状況: 26機関

連絡先筆頭の主な業務
(※青木の主観による)

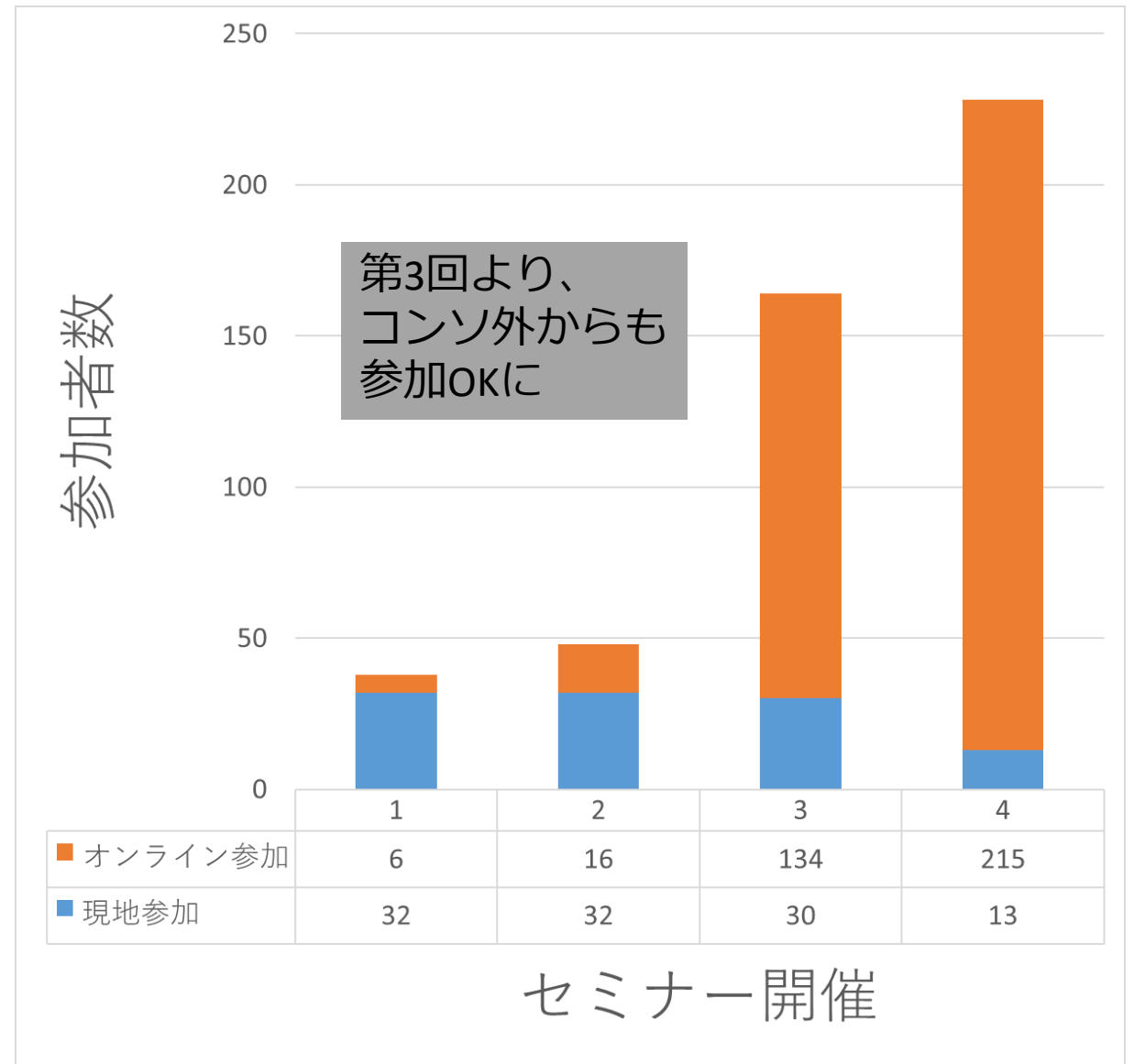
	正会員(大学・機関)	準会員(部署・研究所)	総計
図書	6	5	11
情報	5	5	10
研究推進	4	1	5
	15	11	26

コンソーシアム事業: セミナーの開催

<https://rdm.nagoya-u.ac.jp/html/event/>

- 第1回(2023.12):
キックオフ&国内外のRDM動向
- 第2回(2024.03):
ポリシー策定・実施(機関・医療分野)
- 第3回(2024.06):
メタデータ(機関リポジトリ・分野毎)
- 第4回(2024.09):
DMP作成・研究者支援

(いずれもセミナー後、
会場限定で非公開意見交換)



コンソーシアム事業: 機関毎のポリシー策定・組織運営支援

<https://rdm.nagoya-u.ac.jp/html/project/>

- データポリシー策定支援
 - (日本国内で一般的となった)簡潔なポリシー本文と解説
 - ポリシーに沿った行動計画案
- 研究者に対するアンケート
 - 研究者の意識・実態調査、とともに機関としての考え方を伝える手段
- FD・SD研修支援

- セミナーの感想としては「勉強になった」「役に立った」
 - タイムリーなテーマ設定が奏功
 - 講師には、発表資料の公表・論文化を勧める(AXIES RDM部会との協業)
- データポリシー策定支援事業
 - 民間コンサルタントによるプロマネ・ファシリテーション支援
 - 「スケジュールを切って完成を間に合わせる」に対しては有効
 - 機関側の準備状況に応じた対応が重要
 - ポリシー策定や研究支援に関する理解度・進捗具合にばらつき
 - 機関執行部の意思決定に絡まざるを得ない
 - (三重大学・山中部長から総評がいただけると嬉しい)

- 2024年度
 - セミナー、支援事業を継続実施
- 2025年度以後 (データポリシー制定100%後?)
 - 「ポリシー策定」から「具体的な行動支援」に重心が移る
 - より「立ち入った」内容に踏み込むことに
 - 学内制度・組織構造の検討
 - 情報基盤等、具体的な研究支援サービスの設計・展開
- 大学間で「公開・共有できること」と「できないこと」の乖離がより明確になる
- 「先導事例の排出とコンサルティング」を続けるのであれば、
大学運営・制度設計に詳しい人材の確保と育成(に伴う信頼の獲得)が必要
- 改めて「東海コンソーシアムでは誰のどんな課題が解決できるか」についてご意見を伺いたい